

学校だより

墨田区立立花吾嬬の森小学校

http://www.sumida.ed.jp/tachiazusho/

令和2年3月2日
3月号/第173号
12学級363名
墨田区立花1-18-6
電話：3618-4911
校長 横山 公一

3月の予定○数字は校時() 学年「朝」朝礼「集」集会「体」体育集会「読」読書タイム

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|--|--|----------------------|------------------------------|---------|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 集 給食なし 11時下校 | 3 <small>感染症予防のため の臨時休校 始</small> | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 <small>保護者会は中止</small> | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 春分の日 | 21 | 22 |
| 23 | 24 卒業式 (5・6) | 25 修了式 (12345) | 26 春季休業日始 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 | 4/1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 (未決) <small>始業式(新2~6) 入学式(新2・6)</small> | 7 (未決) | 8 (未決) | 9 (未決) | 10 (未決) | 11 | 12 |

◎新型コロナウイルス感染症に関する対応について

保護者、地域の皆様には大変ご心配をおかけしております。学校が感染症の拡大を防ぐための重要な役割を担うという考えのもと、休業中の対応に関して、ご理解をお願いします。

別紙、区からの通知を、ご覧になってください。

- 特に重要な個所や、本校の対応に関して、以下にまとめます。
- 1 臨時休業期間・・・ 令和2年3月2日(月)～3月25日(水) ～4月5日春季休業
 - 2 休業中・・・・・・・・・・ インフルエンザでの閉鎖と同様、衛生環境の保持に努め、不要不急の外出を控えるなど、感染拡大を防ぐ行動をする。
学校が示した教材をはじめ、学習を行う。
毎日2回の検温を行い、健康観察表に記入する。(本日配布します)
 - 3 卒業式に関して・・・ 実施します。 ※変更等ありましたらメール等でお知らせします。
令和2年3月24日(火)午前中に1時間程度の式
参加できるのは、卒業生・5年生・教職員(保護者、来賓は参加できません)
登校時間 6年生：通常通り登校(～8時25分) 5年生：9時登校
 - 4 修了式に関して・・・ 実施します。放送による式を予定しています。
令和2年3月25日(水)各教室にて、15分ほどの式。
参加するのは、1～5年生(6年生は登校しません)
通常通り登校し、修了式実施。その後通知表の授受、連絡、学級閉じを行って、10時40分完全下校
 - 5 令和2年度始業式に関して
現段階では、区からの正式な指示を待っている状態です。
決定次第、時間、持ち物など詳細をメールもしくは、終業式の日到手紙配付等の手段で、お伝えします。

豊かな心を育む6年生を送る会 「卒業おめでとう！6年生」

2月22日土曜授業にて、6年生を送る会を行いました。体育館は学年ごとに作成された大きな掲示物によって彩られています。ダルマの絵のメッセージ「兄弟だるま」(3年)、飛びたつ鳥に願いをこめた「はばたくハト」(4年)、6年生児童の似顔絵は、1年生の作品です。春らしく、祝いの場を演出する絢爛豪華な菜の花と桜の花「春のおとずれ」(5年)、おめでとうの気持ちをたくさんのお花で表現した作品「心のお花たば」(2年)。ひな壇に並んで腰をかける6年生を正面に全員が大きな輪を作るかのように座り、そんな子供たちをこれらの温かな作品が囲んでいる様子です。学年からのメッセージや出し物では皆で大笑いしたり感心したり、6年生が返礼として歌った合唱は冒頭のハーモニーから美しく響き、歌が紡ぎだす世界がじっくり心に染みいる素晴らしいものでした。真心がこもり、心が温かくなるというのはこういうことなのだとしみじみ思える会となりました。このような体験は、子供たちの心の成長に欠かせないと改めて感じた次第です。裏方ではリーダーのバトンパスを受けた5年生の運営委員会の子供たちが、4年の委員と協力して会をやり遂げたのはこれまたうれしい成長でした。



結果的に、全学年が一堂に会し、6年生の卒業を祝うことができた最後の機会となりましたが、子供も職員も皆の心が一つにつながる素晴らしい会になりました。

私にとっての戦争体験 *硫黄島(いおうじま)→1945年の激戦地のひとつ

私は約25年前に、小笠原の父島で勤めていました。透き通る海と空、この世のものとは思えない圧倒的な自然。ところがそれらとは極めて対照的に、島の各地に多く残る戦跡は、ある場所は崩れ、ある物は密林の中で茶褐色にさびて朽ちて落ち、訪れる人それぞれに黙って何かを語り掛けてくるすごみをもっていました。200キロ離れた硫黄島との関係で、現在は楽園のようなこの島でも戦時中幾度も戦闘があったとのこと。勤務校に山本さんという老齢の用務員さんがいました。小柄で穏やかな山本さんは仕事の合間、ギラギラ照り付ける陽射しをさげ、木陰から子供たちが校庭で遊ぶ姿を見ているのがお好きな方でした。ある時、戦時中の様子に関して子供たちからの問いを受けた彼の口から、思いもよらぬ言葉が発せられるのを、息をのんで聞いたものです。山本さんは硫黄島の守備隊だったが、島が陥落する直前に島の任務を解かれ、内地(本土)に配置換えとなったということです。「偶然だったけれど、生き残ることができた。私はこの命を大切にしたい。」重みのある一言でした。語る山本さん、囲む子供たちと私、そして私たちを見下ろす大木の枝には、ピーデピーデ(ムニンデイゴ)の細かで真っ赤な花が咲いていたのを、夢のこのように憶えています。



今月は平和について考える月でもあります。ぜひご家庭でも話題にされてください。

